



スリランカ

35 プランテーション改善事業

A

B

C

D

新規投資資金の調達が困難であった民営化後のプランテーション企業 (RPC) に、金融機関経由で長期資金を供与することにより、RPCの生産性、経営状況の改善を図り、もってスリランカのプランテーション民営化政策の推進に寄与する。

承諾額/実行額 40億7,600万円／40億7,600万円

借款契約調印 1996年10月

借款契約条件 金利2.3%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド

貸付完了 2000年11月



外部評価者 宮崎慶司 (OPMAC(株))

現地調査 2003年7月～8月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに20のプランテーション企業 (RPC) で農園開発や加工施設の近代化等が実施され、期間および事業費もほぼ計画通りであった。生産性、収益性改善のための支援が行われ、加工施設の近代化や農業機器の整備等による効率化が図られたことにより、対象RPCの紅茶の生産性(1haあたりの生産量)は、6年間で約13%改善し、生産量も2002年には約12万1,000トンと1996年に比べて約6%増加した(01年度の日本国内のお茶生産量は約8万9,800トン)。一方、収益性については国際価格の変動や労働者賃金の上昇などにより、いまだ改善されていない。このほか、本事業では付加価値の高い作物(油ヤシ、イチゴ、オーガニック紅茶、シナモン)への多様化も行われている。RPCの民営化は、スリランカ政府に約72億ルピー(約126億円)を超える株式売却益をもたらすなど、国家財政にも貢献した。また、01年において紅茶・ゴムプランテーションが創出した付加価値はGDPの2.7%を占め、輸出を通じた外

貨獲得効果も大きい(約7億1,000万ドル、約780億円)。さらに、民営化によって農園労働者[※]の労働環境改善効果がもたらされたことも、受益者調査によって確認されている。RPCは現在も直接販路の開拓を含むマーケティング強化等の経営努力を続けているほか、プランテーション省も各種政策を通じてRPCを支援しており、金融機関への延滞はなく、事業の持続性については問題はない。

※ スリランカの農園労働者(家族含む)は約80万人(島根県の人口は約75万人)。

第三者意見

国際市況の変動を受けやすいプランテーションセクターの生産性改善や、近代化などを支援している本事業の妥当性は高い。評価にあたっては、支援していないRPCとの比較分析も行うことが望ましい。

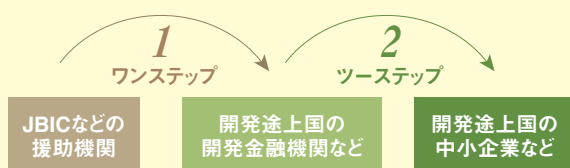
有識者 Mr. T.L. Gunaruwan

パリ第一大学博士課程修了(経済学)。現在コロombo大学経済学部主任講師。専門は基盤整備、事業評価、鉄道、交通、エネルギーなど。

ツーステップローンとは？

借款の供与形態の一つで、第1段階として資金を開発途上国の開発金融機関に対して直接、あるいは当該国政府を通して供与し、第2段階として当該開発金融機関がさらに途上国内の中小企業や農業部門に貸し出すという方式(出典：(株)国際開発ジャーナル社、国際協力用語集)。

ツーステップローンの仕組み



摘み取られたばかりの茶葉を乾燥機にかける従業員。



乾燥して黒くなった茶葉が細かくなって機械から出てきている。